

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101481		
法人名	ヘイセイフードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム岡崎若松の家 (1号館)		
所在地	愛知県岡崎市若松町字川向7-1		
自己評価作成日	令和2年7月22日	評価結果市町村受理日	令和2年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2372101481-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外食や人ごみの中へ出る外出を控えています。下肢筋力が低下しないように天気の良い日は一周300メートル程のコースを朝晩歩いています。
 ・昔から続けられている日本の年中行事を大切に、利用者様に楽しんで頂いています。
 ・立地環境を活かし、町内行事に参加したり、外食や買い物に出掛け、地域住民と接する機会を増やすように取り組んでいます(現在はコロナの為に控えています)。
 ・ご家族様にも安心して頂けるように、電話連絡や手紙(若松通信)等を通して、利用者様の近況を報告し、情報の共有に勤めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

徒歩圏内にスーパーマーケット、喫茶店、ラーメン店、コンビニエンスストアがあり、コロナ禍となる前は存分に地域資源を活用することができていた事業所です。現在は、散歩の折に馴染みのパン屋さんに立ち寄る程度の関わりですが、例えば買い物では常に「商品を選ぶ」「お金のやり取り」といった自己有用感の高まる支援を念頭に置いたケアが推進されており、背表紙が揃った事務ファイルが並ぶ事務室の様子からも実直でこまめな体制にあることが視えます。「介護度が下がる」ことが喜びとして、自立に向けた生活リハビリと五感を刺激する外出支援が盛んなことから、入居待ちが10名と人気も高く、利用者も壮健です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロアと事務所に『ゆっくり一緒に楽しく暮らす』という事業所理念を掲げ、全職員が理念をふまえた介護に取り組んでいる。	「全員同じ」ではなく「やりたい人はやる」とし、「急かさない」「本人本位」の取組みを旨としており、一人ひとりのペースが護られていると管理者は自負しています。また訪問日には、理念を体現する利用者と職員の掛け合いの様子も視認しました。	実践度合いを振り返る機会があると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、外食などの他、利用者様と一緒に回覧板を回したり、地域の草刈りに参加したり、地域住民と馴染みの関係が作れるように取り組んでいる。	コロナが蔓延する以前には、スーパーマーケット、喫茶店、ラーメン店、コンビニエンスストアと、豊かな地域資源を活用したお出かけが豊富でした。現在は、散歩の折に馴染みのパン屋さんに挨拶する程度ですが、町内清掃などには引き続き加わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居待ちの方々が、在宅介護で困っている事があれば、いつでも相談に応じる旨を伝えています。 中学生の職場体験などを通して、子供たちにも認知症への理解を深めてもらっていた事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加したご家族や介護相談員、民生委員、包括支援センター職員等に意見や要望を聞き、出された意見については、可能な限り取り入れている。	運営推進会議はコロナ禍にあっても2ヶ月に1回の開催を順守しています。ただし、3月、5月、7月は職員と利用者のみでの開催となり、外部者は加わっていません。議事録は市へ提出しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を受け入れているグループホームとして、市の担当者と関わる機会も多い。 また、グループホーム部会で、介護保険課職員を招いた『意見交換会』があり、参加している。	生活保護受給者を受け入れていることから社会福祉協議会職員が定期的に足を運んでくださり、運営推進会議が通常開催であれば市役所ならびに地域包括支援センター職員揃っての参加となっています。またグループホーム部会では縦横の意見交換が叶っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。また、年に4回の『身体拘束適性化委員会』の場で、身体拘束をゼロにする為、職員が学ぶ機会を作っている。	身体的拘束適正化検討委員会を設置のうえ、3ヶ月に1回漏れなく開催しており、現場に即した内容で協議するよう努めています。また、事故についても運営推進会議においてインシデントを含み詳らかに報告、外部者の意見を仰いでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や不適切ケアについては、職員同士が、その場で注意し合うようにしている。 さらに、具体例を挙げて職員会議で話し合い、再発防止に努めると共に、直らない場合は降格などの処分を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	AA課程として行っている法定研修の中で『権利擁護について』学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと納得して頂けるように、時間をかけて、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族には、運営推進会議に参加して頂き、要望や意見を外部者へ表せる機会を設けている。出された意見や要望については、可能な限り運営に取り入れている。	2月以降面会を自粛してもらっていましたが、このままだと冬季に第二波がやってきて「1年会えないのか」との危惧から条件(37.5度以下、マスク、面会者は2名まで等)を設定して再開しており、家族と利用者の意向に沿って対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でも職員の意見を聞く機会を設けているが、常日頃から職員の意見や提案を聞いている。	外部者にも気さくに話しかける朗らかな職員集団です。平屋の良さを生かし、「全利用者を全職員で」として2つのユニットを自由に往来しており、職員の視点と行動が広くとられていて、人間関係もおおむね良好ですが、家族意見では「報道相が課題」とあがっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や勤務年数が給与に反映されるようになってきている。また、『個人評価表』での個別評価がボーナスに反映されるシステムがある。また、『職場環境110』が設置されていて、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の『一般研修』『介護研修』、毎月行われる『法定研修』などの内部研修の他、外部の研修へも参加しやすいようにシフトを組むなど、配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム部会や介護サービス事業者交流会などへ参加し、同業者と交流する機会や情報交換する機会があり、そうした場で得た情報も施設のサービス向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談やケアプラン作成時に、ご本人が困っている事、不安な事、希望、要望などに耳を傾けて、本人の安心を確保するため、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様からも困っている事や不安な事、要望などをしっかりと聞いて、良好な関係作りに努め居ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分の施設を勧めるだけでなく、その方に合った介護サービスが受けられるように、見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『介助する側』『介助される側』といった関係ではなく、それぞれが役割を持った、平等で対等な関係として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の定期受診は、ご家族様に同行して頂く等、入居後も関わりが途絶えないようにしている。 面会や運営推進会議、行事への参加も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙などのやり取りは、継続していけるようにサポートしている。	共用空間には外出やイベントで撮影した写真が一人ひとりポケットに入れてラックにさがり、来訪の家族が気に入ったものがあれば持って帰れるように配されているほか、季刊で「若松通信」が発行され、家族に定期的に情報が届いています。	コロナで面会自粛も長くなることから、「1ヶ月の様子」を綴った報連相のツールが導入され、家族の安心と信頼に結ばれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を摂る時の席や散歩に行く時のメンバーなどは出来るだけ配慮している。 散歩の際も車椅子を押して頂く等、支え合えるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、相談や支援に応じたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ひとり一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合は家族と相談しながら行っている。	フェンスに草のツルが巻き付き、管理者が除草しようとしていると、手伝いに入ってくれるということは珍しくなく、アクティブな利用者が少なくありません。リビングでは数名集まってトランプが始まり、散歩では車いすを押してくれたり、意向把握の機会がふんだんにあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に職歴、生活歴、家族構成、これまでのサービス利用などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴や持病、ADLの状態の把握に努め、長谷川式を行うなど、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から希望や要望を聞き、ユニットの職員でカンファレンスを開いて、介護計画を作成している。	介護支援専門員が新たに着任していますが、介護計画書は計画作成担当者が作っているため、大きな変化なく円滑を保っています。生活の場面毎に利用者の声があがっていて、職員は都度「申し送りノート」「介護詳細」に残し、計画と実施に反映させています。	悩みの多い家族にはサービス担当者会議を一緒におこなうといった何らかの支援があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医へ受診する方もいるが、本人や家族の希望で、入居前から通っていた医者へ受診している方もいる。内科以外にも必要な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の希望により在宅の頃からのかかりつけ医を続ける人と、事業所の協力医に変更する人とまちまちですが、コロナ禍となり、薬のみ取りにゆくケースが増えています。介護詳細と申し送りにて漏れのないよう医療情報を職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が利用者様の健康状態の情報を共有し、適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、情報交換を行い、安心して治療、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、ご家族との連絡を密に取り合い、進めている。	法人が数く教育の中にもターミナルケアについてのプログラムがあり、協力医にも理解を得ており、家族にも契約時に「看取りをおこなう事業所である」ことを伝え、書面説明のうえ合意形成しています。	職員に救急対応や重度化について小テストを実施するとともに、従来のかかりつけ医が重度化及び看取りに協力くださるのか否かを、あらかじめ把握しておくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応ができるように、内部研修を行っており、ほとんどの職員は身に付けているが、全ての職員とは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は毎年2回行っているが、実際に起きた場合に訓練通りに的確に動けるかは不安もある。 近隣住民との協力体制も十分とは言い難い。	毎年消防計画を策定し、消防署に届け出たうえで訓練を実施しています。消火、通報、避難誘導訓練のほか、夜間想定もおこなっていますが、備蓄が本部管理であって必ずしも意向通りにはならないことと、近隣の協力体制を敷くことは課題です。	(コロナが終息したら)運営推進会議後に引き続き訓練を実施するなど、外部者に立ち会ってもらい、助言を得ることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていない職員については、その都度注意し、直すようにしている。	「わからん」「なんもできん」とこぼす利用者に「なに謙遜しとんのお」「昨日いっぱいやってくれたよ」と優しく返す職員、またその様子を見守っていたベテラン職員が「いつもありがとうねエ」「沢山やったからよく眠れたね」と重ねてエールを贈る、安寧が滲む場面に遭遇しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一時的に行うのではなく、自己決定できるように、介助する際には、一つ一つ動作の前にご本人に伝え、確認してから行うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方については、出来るだけ自由に、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際の洋服やカットの際の髪形については、ご本人の希望を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年、嗜好調査を行い、食べ物の好き嫌いを把握するように努めている。 また、自分たちがプランターで作った野菜を使ったり、調理の際に、皮むきや味付け、食器洗いや食器拭きなどに関わって頂いている。	食材は業者から1、2日分が入荷の手はずとなっていて、献立と作り方も一緒に届いています。誕生日には寿司やケーキなどを中心に本人の好みのものが並び、また「辛いラーメンが食べたい」といった個別のリクエストには外食(コロナ禍前)で応えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や塩分の調整、咀嚼・嚥下悪い方には、刻み食やミキサー食で対応し、ご自分で食べる事が困難な方には、食事の介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔を見計らってトイレへの声掛けや誘導を行うなど、トイレでの排泄が維持できるように支援している。	便は記録しており、その段階に応じて支援、4日以上空くと投薬といった決め事が予めあります。尿はその人のADLなどの状態で記録を「つけるか」「つけないか」を判断しています。特に腎臓などに疾患のある人のものは回数も把握して、有事に備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で対応しているが、予防までは出来ていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様を2グループに分けて、一日おきに入浴して頂いている。 一日に4～5人が入浴するため、個々に添った支援とは言えない。	時には菖蒲湯などもおこなっており、普段の湯は人毎に入れ替えずかけ流しとしています。「回数を増やしたい」と、仲良しが2名で浴室に入り、浴槽と洗身に分かれるという簡便的な入浴方法としており、実際比較的多い1日おきの頻度となっています。	回数が多いのはいいことですが、「ゆったり、職員とマンツーマンで会話を楽しむ」日もあるよう、改めてオペレーションを検討ください。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に一日一度は散歩や外気浴を行っている。また、生活歴に合わせて畑仕事や家事仕事などの役割を持って頂いている。 パンが好きな方はパンを買いに行ったり、コーヒーが好きな方は喫茶店に行けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などには出掛けているが、ひとり一人のその日の希望に添った対応までは出来ていない。 桜や梅の咲く時期には、お弁当を持ってお花見に出かけたりしている。	近隣にある南公園には観覧車もあって、季節の花々を眺めることもでき、お弁当持参の遠足にはもってこいの場所で、80歳を越える利用者も徒歩で出かけています。コロナ禍となり、散歩程度となった外出支援ですが、もともと活発だったことから終息が待たれます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際に、ご自分で支払いの出来る方には、財布からの支払いをして頂いているが、普段は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある方には、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今が何月か、季節はいつかを感じられるように、年中行事や四季に合わせた飾りを利用者様と作成して飾っている。	足元に何もなくすっきりとした共用空間の床は年1回はワックスがけもし、毎日職員が掃除しています。ユニットで壁の色も変えています。職員も利用者も隣のユニットと仲がいいせいか、掲示をはじめ雰囲気は似通っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でソファーに座ってテレビを見たり、食卓テーブルに座って過ごしたり、居室で過ごすなど、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、自宅で使用していた家具や家電、家族の写真、茶碗や箸など、使い慣れた物を特に制限なく持って来て頂いている。(火気・刃物以外)	散歩好きな利用者の帽子をかけるスタンドは伴侶のお手製で、離れていても大切に想う様子が伝わります。電気シェーバーを置く人には、使用する時は職員が手伝うようで、できる限りこれまで通りの暮らしがあるように支援していることが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の「出来る事」「分かる事」を職員が把握し、その方の状態に合わせ、ご本人の意思を確認したうえで、家事の手伝い等をお願いし、みんなで協力して生活している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101481		
法人名	ヘイセイフードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム岡崎若松の家 (2号館)		
所在地	愛知県岡崎市若松町字川向7-1		
自己評価作成日	令和2年7月22日	評価結果市町村受理日	令和2年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2372101481-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外食や人ごみの中へ出る外出を控えています。下肢筋力が低下しないように天気の良い日は一周300メートル程のコースを朝晩歩いています。
 ・昔から続けられている日本の年中行事を大切に、利用者様に楽しんで頂いています。
 ・立地環境を活かし、町内行事に参加したり、外食や買い物に出掛け、地域住民と接する機会を増やすように取り組んでいます(現在はコロナの為に控えています)。
 ・ご家族様にも安心して頂けるように、電話連絡や手紙(若松通信)等を通して、利用者様の近況を報告し、情報の共有に勤めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

徒歩圏内にスーパーマーケット、喫茶店、ラーメン店、コンビニエンスストアがあり、コロナ禍となる前は存分に地域資源を活用することができていた事業所です。現在は、散歩の折に馴染みのパン屋さんに立ち寄る程度の関わりですが、例えば買い物では常に「商品を選ぶ」「お金のやり取り」といった自己有用感の高まる支援を念頭に置いたケアが推進されており、背表紙が揃った事務ファイルが並ぶ事務室の様子からも実直でこまめな体制にあることが視えます。「介護度が下がる」ことが喜びとして、自立に向けた生活リハビリと五感を刺激する外出支援が盛んなことから、入居待ちが10名と人気も高く、利用者も壮健です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロアーと事務所に『ゆっくり一緒に楽しく暮らす』という事業所理念を掲げ、全職員が理念を+D6:E19ふまえた介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、外食などの他、利用者様と一緒に回覧板を回したり、地域の草刈りに参加したり、地域住民と馴染みの関係が作れるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居待ちの方々が、在宅介護で困っている事があれば、いつでも相談に応じる旨を伝えていきます。 中学生の職場体験などを通して、子供たちにも認知症への理解を深めてもらっていた事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加したご家族や介護相談員、民生委員、包括支援センター職員等に意見や要望を訊き、出された意見については、可能な限り取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を受け入れているグループホームとして、市の担当者と関わる機会も多い。 また、グループホーム部会で、介護保険課職員を招いた『意見交換会』があり、参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。また、年に4回の『身体拘束適性化委員会』の場で、身体拘束をゼロにする為、職員が学ぶ機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や不適切ケアについては、職員同士が、その場で注意し合うようにしている。 さらに、具体例を挙げて職員会議で話し合い、再発防止に努めると共に、直らない場合は降格などの処分を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	AA課程として行っている法定研修の中で『権利擁護について』学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと納得して頂けるように、時間をかけて、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族には、運営推進会議に参加して頂き、要望や意見を外部者へ表せる機会を設けている。出された意見や要望については、可能な限り運営に取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でも職員の意見を聞く機会を設けているが、常日頃から職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や勤務年数が給与に反映されるようになってきている。また、『個人評価表』での個別評価がボーナスに反映されるシステムがある。 また、『職場環境110』が設置されていて、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の『一般研修』『介護研修』、毎月行われる『法定研修』などの内部研修の他、外部の研修へも参加しやすいようにシフトを組むなど、配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム部会や介護サービス事業者交流会などへ参加し、同業者と交流する機会や情報交換する機会があり、そうした場で得た情報も施設のサービス向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談やケアプラン作成時に、ご本人が困っている事、不安な事、希望、要望などに耳を傾けて、本人の安心を確保するため、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様からも困っている事や不安な事、要望などをしっかりと聞いて、良好な関係作りに努め居ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分の施設を勧めるだけでなく、その方に合った介護サービスが受けられるように、見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『介助する側』『介助される側』といった関係ではなく、それぞれが役割を持った、平等で対等な関係として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の定期受診は、ご家族様に同行して頂く等、入居後も関わりが途絶えないようにしている。 面会や運営推進会議、行事への参加も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙などのやり取りは、継続していけるようにサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を摂る時の席や散歩に行く時のメンバーなどは出来るだけ配慮している。 散歩の際も車椅子を押して頂く等、支え合えるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、相談や支援に応じたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ひとり一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合は家族と相談しながら行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に職歴、生活歴、家族構成、これまでのサービス利用などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴や持病、ADLの状態の把握に努め、長谷川式を行うなど、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から希望や要望を聞き、ユニットの職員でカンファレンスを開いて、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医へ受診する方もいるが、本人や家族の希望で、入居前から通っていた医者へ受診している方もいる。内科以外にも必要な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が利用者様の健康状態の情報を共有し、適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、情報交換を行い、安心して治療、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期の対応については、ご家族との連絡を密に取り合い、進めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応ができるように、内部研修を行っており、ほとんどの職員は身に付けているが、全ての職員とは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は毎年2回行っているが、実際に起きた場合に訓練通りに的確に動けるかは不安もある。 近隣住民との協力体制も十分とは言い難い。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていない職員については、その都度注意し、直すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一時的に行うのではなく、自己決定できるように、介助する際には、一つ一つ動作の前にご本人に伝え、確認してから行うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方については、出来るだけ自由に、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際の洋服やカットの際の髪形については、ご本人の希望を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年、嗜好調査を行い、食べ物の好き嫌いを把握するように努めている。 また、自分たちがブレンダーで作った野菜を使ったり、調理の際に、皮むきや味付け、食器洗いや食器拭きなどに関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や塩分の調整、咀嚼・嚥下悪い方には、刻み食やミキサー食で対応し、ご自分で食べる事が困難な方には、食事の介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔を見計らってトイレへの声掛けや誘導を行うなど、トイレでの排泄が維持できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で対応しているが、予防までは出来ていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様を2グループに分けて、一日おきに入浴して頂いている。 一日に4～5人が入浴するため、個々に添った支援とは言えない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に一日一度は散歩や外気浴を行っている。また、生活歴に合わせて畑仕事や家事仕事などの役割を持って頂いている。 パンが好きな方はパンを買いに行ったり、コーヒーが好きな方は喫茶店に行けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などには出掛けているが、ひとり一人のその日の希望に添った対応までは出来ていない。 桜や梅の咲く時期には、お弁当を持ってお花見に出かけたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際に、ご自分で支払いの出来る方には、財布からの支払いをして頂いているが、普段は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある方には、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今が何月か、季節はいつかを感じられるように、年中行事や四季に合わせた飾りを利用者様と作成して飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でソファーに座ってテレビを見たり、食卓テーブルに座って過ごしたり、居室で過ごすなど、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、自宅で使用していた家具や家電、家族の写真、茶碗や箸など、使い慣れた物を特に制限なく持って来て頂いている。(火気・刃物以外)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の「出来る事」「分かる事」を職員が把握し、その方の状態に合わせ、ご本人の意思を確認したうえで、火事の手伝い等をお願い、みんなで協力して生活している。		